

令和6年度事業報告
～第4次中期経営計画成果指標達成率を中心として～

令和6年度は、私たちの成長モデル「業務遂行のみちしるべ」を作成し、4月の法人研修の場で全体共有を図り、日々の仕事を通して「私たちの成長モデル」を体現できるよう取り組むとともに、職員の自己評価に基づく新たな人事評価の導入や月ごとの1on1ミーティングを実施することにより、職員が自ら学び成長できるような人材育成に取り組みながら事業を進めることができた。

また、新たに感染症対策推進委員会を設置し、4回の委員会を開催したほか、研修と訓練をそれぞれ2回ずつ実施することにより、感染対策の基本的知識の習得とともに、事業所内での訓練を通じた感染者対応等の手順を確認し、感染対策の徹底を図った。

さらには、令和6年10月から公益的取組の推進に向けた組織的検討の場を設置し、精神障害に関する理解啓発を目的として、地域における出前講座を推進するためのコンテンツを作成し、令和7年度以降の地域展開に向けた取り組みを進めてきた。

I 精神障害者支援の推進

1. 自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業(ウインディ広瀬川 定員20名)

※()内は前年度の数値

実施項目			成果指標	実績	達成度
1. 入院からの自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業 新規利用者数			7人	7人 (5人)	100%
入所申込から時間を掛けず、スピーディに手続きを進められるよう調整したり、病棟に出向いたインテーク面接の実施、利用者や医療機関の事情等に合わせた短期間の体験利用を行なうなど柔軟な利用手続きを行い、入院から7名の利用者の受け入れ目標を達成した。					
2. 生活訓練から地域生活への移行者数(ウインディ広瀬川)			8人	6人 (8人)	75%
グループホームへ2名、自宅復帰が1名、単身生活へ3名が移行した。グループホーム移行については、見学及び体験利用等の調整、送迎対応を行ない、障害者相談支援事業所等と連携を図りながらスムーズな移行を支援した。単身生活移行者についても住居探しの同行支援、引っ越し等の対応や必要物品等の購入についてサポートし、丁寧な地域移行支援に努めた。地域移行後も3か月間は居住先への訪問を実施し、支援者と連携を図りながら、利用者の希望や心配に寄り添い、アフターフォローを実施した。					
3. ウインディ 広瀬川	自立訓練(生活訓練)	1日平均利用者数	16人	11.1人 (9.2人)	69%
	宿泊型自立訓練	1日平均利用者数	16人	11.2人 (9.1人)	70%
・毎月実施している利用者アンケートの内容を反映し、創作活動をしたり、グループ毎に外出するなど楽しみながら生活の幅を広げることができた。また、仙台市や宮城県の出前講座を活用し、ゴミの分別や口腔衛生、感染症対応について学ぶなどプログラムの充実を図った。 ・新規利用者の利用促進のため、各区役所や委託の相談支援事業所を訪問し、営業活動を行った。また各関係機関へ適宜空き状況の周知を行ったり、地域における会議やイベント等に参加して事業所の周知やPRを行った。					
4. 短期入所事業延べ利用者数(ウインディ広瀬川)			630人	492人 (430人)	78%
・相談支援事業所や医療機関等へ適宜空き状況を伝えたり、空室が出た際は本人や家族、支援者に連絡して利用を促した。 ・関係機関と連携し、利用者の状況に応じて面接対応や金銭預かり、洗濯等の支援を実施することで、利用者や家族が安心して休息できる環境を提供し、地域生活の安定に努めた。					

2、就労移行支援事業（パルいずみ 定員6名）

実施項目		成果指標	実績	達成度	
1. 就労移行支援事業による一般就労者数		3人	1人 (0人)	33%	
令和6年7月に1名が障害者枠で就労した。					
2. 就職後の職場定着のために支援した人数		12人	2人 (4人)	17%	
1名に対し定期的に職場を訪問し、雇用先の担当者や家族と連携しながら課題解決に向けた支援を行った。また、1名に対して近況確認を行いながら、雇用先との連絡調整等の支援を行った。					
3. 就労移行支援事業 の利用者数	パルいずみ 定員6名	1日平均利用者 数	6人	1.3人 (1.9人)	22%
		延べ利用者数	1,440人	309人 (471人)	21%
新規利用者の受け入れがなく、1名が就職で辞めたほか身体面の理由で就労継続支援B型利用に切り替えた利用者がいたことが影響し、昨年度実績を下回った。					

3、就労継続支援B型事業（パルいずみ 定員24名 パル三居沢 定員20名）

実施項目			成果指標	実績	達成度
1. 就労継続支援B型事業の利用者数	パルいずみ 定員24名	1日平均利用者数	20人	10.5人 (11.1人)	52%
		延べ利用者数	4,800人	2,529人 (2,695人)	53%
	パル三居沢 定員20名	1日平均利用者数	20人	10.9人 (8.9人)	54%
		延べ利用者数	4,800人	2,638人 (2,156人)	55%
利用者が安心して通所し、自らの目標に向けて意欲を維持しながら利用を継続できるよう、定期面接や体調確認、欠席時の連絡などを実施し、パル三居沢においては述べ利用者数が増加した。パルいずみでは、在籍者数は増加したが、体調の変化等の要因により、延べ利用者数が昨年度実績を下回った。					
2. 就労継続支援B型事業の工賃	パルいずみ	平均月額	26,000円	27,830円 (25,373円)	107%
	パル三居沢	平均月額	24,000円	20,720円 (23,787円)	87%

パルいずみでは、七夕まつりの集客時期に合わせて七夕ストラップを大量に製作するとともに、仙台空港に営業を行うなど販路の拡大により、収入の増加を図ることができた。また、事業所内の作業においてもみやぎセルプ共同受注センターや取引のある業者との積極的な営業に取組んだ。その結果、目標平均工賃を超える実績を上げることができた。

パル三居沢では、下請作業について単価交渉を行い作業収入増に努めた他、自主製品に関しては新規製品の開発に取り組み、販売会への出店や委託販売先の確保を行った。その結果年間売上金額が昨年度を上回ったが、利用率も増加したため、目標平均工賃の達成には至らなかった。

4. 障害者相談支援事業（ほっとすぺーす）

実施項目	成果指標	実績	達成度
1. 相談支援事業延べ利用件数	4,000件	6,385件 (6,572件)	160%
249名の利用者（うち46名が新規）が利用しており、322回の訪問、76回の面接、114回の同行支援を実施。また、個別支援会議を843回、関係機関との連絡調整を2,207回、その他電話相談等の支援を合わせ延べ6,385件の支援を行った。			
2. 相談支援事業における入院から退院に向けた支援の利用件数	60件	25件 (70件)	42%
入院中の利用者の退院へ向けた支援として25回の訪問を実施し、10名の利用者が退院した。			
3. 仙台市の各種協議会等への参加回数	25回	30回 (58回)	120%
サポネットあおば（青葉区障害者自立支援協議会）の事務局として運営会議に参加するとともに、相談支援事業所等連絡会を実施した。また、宮城県障害者自立支援協議会人材養成部会に部会員として参加し、人材育成に関する協議をした。			
4. 計画相談利用実人員	100人	88人 (91人)	88%
個々の状態に応じた継続的な支援を障害福祉サービス事業所や行政、医療機関と連携し、実施した。			

Ⅱ 公益的取り組みの実施

実施項目		内 容	
Ⅰ. 地域的取り組み 各種団体との連携事業等		(法人) ・仙台男女共同参画推進センターが主催する、女子のためのほっとスペースに12月18日に職員2名を派遣し、来場者の相談対応を行った。 ・地域における公益的取組の事業化について検討を進めた。当面の方向性として、仙台スピーカーズビューローと連携し、精神障害(者)の理解促進に向けた出前講座を地域で実施していくこととし、地域展開に関しては仙台市社協泉区事務所との連携しながら進めていく。 ・仙台市再犯防止推進ネットワーク会議に参加し、課題の把握とネットワークづくりに取組んだ。仙台保護観察所職員による法人職員に対する研修を実施したほか、仙台保護観察所職員がパル三居沢、パルいずみに見学のため来所した。(ほっとスペース) ・青葉区障害者自立支援協議会(サボネットあおば)に参画し、相談支援事業所等連絡会の運営を担った他、各種会議体に参加。 ・宮城県障害者自立支援協議会人材養成部会に参加し、地域課題の取組等について検討。 ・地域の支援者同士のネットワーク形成を目的とし、ゆるっく〜地域でつながろうの会〜(国見地域多職種連携ネットワーク会議)に事務局として参画。 ・青葉区精神障害者家族教室、青葉北ブロックケアマネージャー交流会に講師として参加。 ・宮城県立支援学校岩沼高等学園合同説明会に参加し、生徒・保護者に障害者相談支援事業所の説明を実施。 (ウインディ広瀬川) ・ちいくら会(地域で暮らそう座談会)に参加。 ・ほっとスペース、パル三居沢とともに国見地域包括支援センター訪問や八幡地区包括圏域会議、ゆるっく(国見地域多職種連携ネットワーク会議)等に参加し、地域におけるネットワークづくりを行った。 (パル三居沢) ・ほっとスペース、ウインディ広瀬川とともに国見地域包括支援センター訪問や八幡地区包括圏域会議、ゆるっく(国見地域多職種連携ネットワーク会議)等に参加し、地域におけるネットワークづくりを行った。 (パルいずみ) ・地域医療福祉連携の会の世話人会への出席、会の運営実施。 ・泉区障害者自立支援協議会の実務者ネットワーク会議(よめごと会議)に参加。	
2. 実習生の受入れ	社会福祉士ソーシャルワーク実習	11人	各事業所において、養成機関と連携し、専門職を目指す学生の実習受け入れに努め、指導を行った。その結果、昨年度を上回る実績を得ることができた。 ウインディ広瀬川:社福3人、精保4人、看護52人 パルいずみ:精保12人、看護142人、 介護等の体験実習2人 パル三居沢:精保4人、看護138人 ほっとスペース:社福8人
	精神保健福祉援助実習	20人	
	精神看護学実習	332人	
	教員免許法の特例による 介護等の体験実習	2人	
	計	365人	

Ⅲ 法人運営の強化

1、健全な財務規律の確立

給付費（障害福祉サービス費：仙台市収入）		成果指標	実績	達成度
ウインディ広瀬川	自立訓練（生活訓練）	30,500千円	23,515千円 (18,138千円)	77%
	宿泊型自立訓練（定員20名）	26,300千円	27,975千円 (19,322千円)	106%
	短期入所（3名）	5,500千円	4,297千円 (3,444千円)	78%
パルいずみ	就労移行支援（定員6名）	7,600千円	1,460千円 (2,322千円)	19%
	就労継続支援B型（定員24名）	25,900千円	18,454千円 (14,750千円)	71%
パル三居沢	就労継続支援B型（定員20名）	27,800千円	20,841千円 (13,539千円)	75%

指定管理事業として行う障害福祉サービス事業に対する給付費は、仙台市の収入として処理されている。当法人においても、中期経営計画において成果指標を設定し、事業運営にあたることとしており、加算対象となる利用者の積極的受け入れや工賃向上による就労継続支援B型事業の給付費単価の向上、利用者の増員等の取り組みの強化により給付費の増収を図っていくこととしており、令和6年度は、ウインディ広瀬川の事業及び就労継続支援B型事業においては給付費の増収が図られた。

2、人材の育成

実施項目	
1. 法人職員研修の実施	
【法人内職員全体研修】 ・令和6年 4月26日：コンピテンシーモデル、令和6年度事業計画、令和6年度報酬改定の共有 ・令和6年 6月28日：障害者虐待防止研修 ・令和6年 8月30日：個人情報保護、情報セキュリティ ・令和6年10月25日：BCP研修 ・令和7年 1月31日：ストレスマネジメント ・令和7年 2月20日：感染症対策研修 ・令和7年 3月14日：安全対策・広報委員会報告、令和7年度事業計画 ・安全対策委員会委員を対象として、宮城産業保健総合支援センター主催の職場における睡眠問題研修を受講 ・ほっとすぺーす、ウインディ広瀬川において実施するケース検討会に、他事業所でもZoom等で参加 このほか、仙台市職員研修所が行う「2年目職員研修」「係長研修」「課長研修」や仙台市主催の「情報管理者研修」に参加した。さらに、各事業所において外部研修等に参加し、人材育成に取り組んだ。	
2. 人事評価の実施	・7月、10月、1月を基準とした自己評価結果に基づいた管理者による全体評価、理事長による総合評価の実施 ・自己申告書に基づく職員の意向把握
3. 「私たちの行動基準」の具体化	私たちの行動基準に基づき、職員それぞれが毎月の行動目標を定め、管理者との1on1ミーティングを通して振り返りを行いながら、行動基準の具体化を図った。

3. リスクマネジメントの推進等

実 施 項 目	
1. 情報公開の充実	法人会報を発行(令和6年7月、令和7年1月)し、財務状況、各事業所の活動報告を行った。また、ホームページにおいても、財務状況を公表するとともに、個人情報保護規程、ハラスメント防止指針、虐待防止対応規程を掲載した。さらに、ホームページブログを週1回更新し、日々の活動内容等を発信している。
2. 感染症対策の推進	令和6年8月、11月、令和7年1月、3月に感染対策推進委員会を実施し、研修会を2回、訓練を2回実施した。
2. 虐待防止の取組	・法人の苦情解決委員会第3者委員の土井弁護士を講師として、障害者虐待防止に関する研修を実施した。 ・各事業所において、虐待防止チェックリストを用いて、毎月職員全体で確認した。
3. BCP(事業継続計画)の取組	・法人の総合防災訓練に合わせて、自然災害BCPに関する動画視聴や法人BCPの内容と非常配備体制の確認を実施した。
4. 個人情報保護の取組	・仙台市主催の研修に参加するとともに、法人研修で個人情報の保護や情報セキュリティに関する研修を実施した。 ・安全対策委員会における定期的なウイルスチェックの実施確認などにより、情報の外部漏洩の防止に努めた。
5. 防災訓練・消防訓練の実施	令和6年10月25日、法人全体の防災訓練を実施。訓練は、パルいずみとウィンディ広瀬川に設置されている防災無線を活用して行い、事業所間の情報共有や伝達に関する内容で実施した。また、各事業所においても、消防計画に基づく消防訓練を実施した。

IV. 評議員会及び理事会の開催状況

(1) 評議員会

開催日	内 容
定時評議員会 令和6年6月21日	議 案 第1号議案 令和5年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書) 及び財産目録の承認について 第2号議案 理事の選任について 報 告 第1号報告 令和5年度事業報告について 第2号報告 第四次中期経営計画の一部改正について その他 (1) 令和6年度事業計画について (2) 令和7年度収支予算書について (3) BCP(自然災害対応)策定について (4) 私たちの成長モデル～業務遂行のみちしるべ～について

(2) 理事会

開催日	内 容
第1回定時理事会 令和6年6月4日	議 案 第1号議案 令和5年度事業報告及び決算の承認について 第2号議案 令和6年度補正予算の承認について 第3号議案 評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について 第4号議案 第四次中期経営計画の一部改正について 報 告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号報告 BCP(自然災害対応)について 第4号報告 私たちの成長モデル～業務遂行のみちしるべ～について
第1回臨時理事会 令和6年6月21日	議 案 常務理事の選定について
第2回定時理事会 令和6年9月12日	議 案 第1号議案 アルバイト職員就業規則の一部を改正する規則について 第2号議案 指定障害福祉サービス事業運営規程の一部を改正する規程について 第3号議案 令和6年度補正予算の承認について 報 告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号報告 令和6年度第1回感染対策推進委員会について
第3回定時理事会 令和6年12月18日	報 告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号議案 嘱託職員就業規則の一部改正について 第4号議案 指定障害福祉サービス事業運営規程の一部改正について
第4回定時理事会 令和7年3月26日	議 案 第1号議案 令和6年度補正予算の承認について 第2号議案 令和7年度事業計画の承認について 第3号議案 令和7年度収支予算の承認について 第4号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第5号議案 職員就業規則の一部改正について 第6号議案 職員給与規程の一部を改正する規程 第7号議案 嘱託職員就業規則の一部を改正する規則 報 告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号報告 障害福祉サービス事業運営規程の一部改正について 第4号報告 短期入所事業運営規程の一部改正について 第5号報告 職員の特別休暇に関する要領の一部改正について

V. 苦情及び虐待防止関係

苦情に関する申出及び虐待に関する事案はなかった。

VI. 人事関係

(1) 職員採用状況

嘱託職員1名採用 パル三居沢に令和7年4月1日配属

(2) 表彰関係

厚生労働大臣表彰

高梨 直樹

(3) 安全衛生関係

職員全員の健康診断を実施したほか、各事業所において外部保健師による健康診断の事後指導を実施した。

VII. 管理者会議並びに管理者・係長合同会議

管理者会議は毎月1回実施、管理者・係長合同会議は8月、11月、3月に実施し、法人の経営及び事業運営に係る企画、各事業所の運営課題の検討や情報交換等を行った。

令和6年度 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業所 ウインディ広瀬川事業報告

利用者一人ひとりの障害特性に応じた生活訓練を実施しながら、本人が希望する地域生活への移行を支援した。生活訓練プログラムに関しては、対話やコミュニケーションを目的とした新たなプログラムを導入し、対人スキルの向上等に努めた。また創作活動やグループ毎の外出など楽しみながら生活の幅を広げることができた。さらに今年度から仙台市や宮城県の出前講座を活用し、ごみの分別や口腔衛生、感染症対応について学ぶなどプログラムの充実を図った。

新規利用者の受入れについては、病棟に出向いてインテーク面接を実施したり、利用者や医療機関等の事情に合わせて短期間の体験利用を行うなど柔軟に利用手続きを行いながら11名の利用者を受け入れた。

短期入所事業については、面接対応や金銭預かり、洗濯等の支援を行うなど利用者の状況に応じて柔軟な支援や対応を行った。空室が出た際は本人や家族、支援者に連絡することで利用率の向上を図り、延べ利用者数は昨年度より漸増した。

I 事業内容

1. 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業

入院中の精神障害者に対する新規利用の促進を目的に、入所に向けた体験利用を8名に対し延べ61日実施。入院からの利用者が7名、在宅からの利用者が4名で計11名の利用者を受け入れた。

(1) 生活訓練

地域で自立した生活を送れるよう、週間予定表の作成による生活習慣作り、生活用品や衣類等の買い物同行、金銭や服薬管理の練習など個々の利用者の特性に合わせた生活訓練プログラムを提供した。また、毎月実施している利用者アンケートの結果に基づいてプログラムを構成したり、外出プログラムの行き先を選定するなど利用者の希望に合わせて実施した。

集団プログラム	項 目	内 容 ()は頻度または実施回数
	生活技術	館内清掃（毎日） 調理実習（週1回） 生活講座（月2回程度）※別表参照
	出前講座	ごみの分別（4月）、安全な食生活（5月）、生活ごみの分け方出し方（6月）、歯と口のケア（9月）、感染症への対応（11月）
	外出訓練	公共交通機関を使用した外出（年7回）
	健康維持	ラジオ体操（毎日）、スポーツ（週1回） ニュースポーツ（月1回） 感染症や食事の栄養等に関する講話（年1回程度）
	教育・学習	ポジティブワーク（月1回） カラーセラピー（年1回）
	余暇支援	カラオケ、音楽鑑賞、動画鑑賞（各月1回程度） 季節の行事（年6回）

		・お花見（４月） ・バス旅行（１１月） ・七夕まつり（８月） ・クリスマス会（１２月） ・芋煮会（１０月） ・豆まき（２月）
	社会参加	アレマ隊（広瀬川河畔の清掃活動）（月１回程度）
	対人交流	コミュニケーション教室（月１回） トーキングサークル（月１回）

個別支援プログラム	掃除・整頓、清潔保持、調理、通院支援、買物支援、制度利用支援、体調管理、服薬管理、金銭管理、余暇支援、対人関係についての支援を実施
-----------	---

別表：生活講座は以下の内容で実施した。

月	内 容	月	内 容
４月	掃除について	１０月	地域移行について（日中活動）
５月	余暇の過ごし方、衣替え、地域移行について（グループホーム見学）	１１月	感染症、整理整頓
６月	お金の使い方について	１２月	整理整頓、食事・栄養バランス、窓清掃
７月	整理整頓、窓枠掃除	１月	就労移行支援事業所とは、パル三居沢見学
８月	洗濯（グループ毎）、福祉サービス	２月	パルいずみ見学、整理整頓
９月	生活リズム	３月	収納について

（２）宿泊訓練

個別支援計画に基づき、以下のとおり利用者の特性に合わせて支援した。

①就寝・起床、食事、入浴等の生活リズムの確立

規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、入浴、食事準備の際に声掛けや見守りの支援を行った。生活リズムを整えるため、プログラムに休まず参加することや、疲れを溜めないような生活に向けた助言をしたり、毎月の振り返りの中で血圧・体重測定などを実施した。

②整容、洗濯、居室整理、ゴミ分別・ゴミ出し等衛生面の習得

洗濯物の量を確認して適切な頻度で洗濯に取り組めるよう助言、指導を行った。

利用者全員の居室を月１回点検し、必要に応じて助言、指導を行った。

浴室やトイレの清掃は、利用者１名につき月３～４回程度行えるように当番制で実施した。

③服薬管理

利用者の意向を尊重し、希望者には事務室での管理を行いながら、それぞれの利用者の特徴に合わせてステップアップをしながら自己管理に向けた訓練を行った。

④金銭管理

予算内での管理が難しい、計画を立てるのが苦手等、個々の利用者の特徴や状況に合わせて訓練を行った。家族や関係機関からもアセスメントを行いながら、効果的な訓練を提供できるよう配慮した。

（３）地域生活への移行支援

地域生活への移行者数は、６名となった。

①家族・関係機関との意見調整

本人を中心に、家族、医療機関、相談支援事業所、保健福祉センター、グループホーム等の関係機関と十分な意見調整を行いながら、地域生活への移行を支援した。

利用中の目標確認、退所に向けた準備等を目的としたケア会議を開催したほか、随時サービス担当者会議に参加し退所後の生活についての検討を行った。

②退所先住居の確保

利用者の希望に沿って、アパートやグループホームの見学、受入れ先との情報共有、申請手続き等の支援を行った。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、3名の利用者がアパートでの単身生活、2名の利用者がグループホームへ移行した。

③生活保護等の相談・申請

生活保護申請に向けて、区役所への相談支援を実施。地域移行後の生活保護受給に繋がった。

④必要な在宅福祉サービスの導入

本人の意向を基に必要な在宅福祉サービスを検討。単身生活へ移行する利用者が短期入所サービスを申請した。

⑤地域生活における日中活動等へ向けた取組

本人の希望をもとに、就労継続支援B型事業所等見学の実施を行った。

(4) 面接相談

①随時面接

精神的不調の訴えや、生活上の困りごと、職員からの随時の助言指導などを含め、状況に応じた生活課題に関する面接を行った。

②定期面接

全ての利用者に対して、1か月に1回以上の面接を行った。

③家族面接

家族の相談への対応や本人の状況報告、事業所の取組み説明等のため家族との面接を実施した。

(5) 健康管理

①仙台市が実施する各種健診の情報提供、受診同行、受診後の助言

仙台市市民健診の周知を行い、各種健診の受診勧奨を行なった。また精神科に限らず、内科や皮膚科などの受診同行を行ない利用者の健康管理のサポートを行った。

②体重及びバイタルチェック

利用者全員に月1回実施し、必要に応じて助言指導を行った。

③健康教育

出前講座で歯科医師等を招いて歯と口のケアに関する講話や歯みがきの指導を行ったり、感染症についての講話を行った。

利用者から体調不良の訴えを受けた際は、状況に応じて受診勧奨や通院同行を行った。

(6) 退所者へのアフターケア

①訪問サービス

8名の利用者が退所した。退所者のうち、アパートでの単身生活3名とグループホーム入居2名に対して、3か月間のアフターケアを実施した。必要に応じて通所事業所の見学同行、通院同

行をしたり、関係機関と情報共有し、本人との関係作りや円滑な地域移行のため丁寧な引継ぎを行った。

②電話相談、面接相談

随時実施した。

③関係機関との連絡調整

随時実施した。

(7) 実習生の受入れ・指導

東北福祉大学より精神保健福祉実習4名、ソーシャルワーク実習3名、葵会仙台看護専門学校より28名、仙台医療センター附属仙台看護助産学校より24名の実習生を受け入れた。

(8) 仙台市の協議会への参加

7月、2月に青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおばのつどい」に参加した。

サポネットあおばが実施する「ゆるっく〜地域でつながろうの会〜」に計2回参加。「ゆるっくひろば」にも希望する利用者4名と参加した。

2. 短期入所（ショートステイ）事業

本人、家族の休息を目的に、ショートステイ事業を行った。中期経営計画目標の延べ利用者数630名に対して、492名の利用があった。

3. 地域移行支援事業における体験宿泊支援、地域定着支援事業における一時滞在支援

本年度における利用実績はなかった。

4. 利用者増の取り組み

県立精神医療センターで実施している入院患者の退院促進を目的とした「ちいくら会（地域で暮らそう座談会）」に参加。実際に病棟に伺って入院患者の困りごとや課題等を確認しながら、事業所の紹介を行った。また各区役所、委託の相談支援事業所へ訪問してPR活動を行ったり、医療機関や相談支援事業所等へ随時空き状況を伝えることで利用促進を図った。

5. 大規模改修への対応

大規模改修に向けて仙台市の各担当課や設計業者等との打ち合わせを行ったり、工事業者等の対応を行った。また仮移転に向けて業務委託の業者との調整や電話配線工事の調整など必要な対応を行った。

Ⅱ 事業実績

(令和7年3月31日現在)

表－1. 利用者状況

(人)

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利 用 者	宿泊型 自立訓練	開 所 日 数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
		利 用 者 実 人 数	10	11	10	12	12	14	14	14	13	15	15	13	－
		延 べ 利 用 者 数	272	268	276	283	315	379	429	380	352	371	369	373	4,067
		1日平均利用者数	9.1	8.7	9.2	9.2	10.2	12.7	13.9	12.7	11.4	12.0	13.2	12.1	11.2 ※3
		利 用 率 (%)	45	43	46	46	51	63	69	63	57	60	66	60	56
	自立訓練 (生活訓練)	開 所 日 数 (日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
		利 用 者 実 人 数	10	11	10	12	12	14	14	14	13	15	15	13	－
		延 べ 利 用 者 数	189	182	175	196	211	236	296	251	232	236	236	238	2,678
		1日平均利用者数	9.0	8.7	8.8	9.0	10.1	12.5	13.5	12.6	11.6	12.5	13.2	11.9	11.1 ※3
		利 用 率 (%)	45	43	44	45	50	62	67	63	58	62	66	60	55
	当月在籍者数(定員20名)		10	9	10	10	12	14	14	13	13	15	13	12	－
	新 規 利 用 者 数		1	1	1	2	2	2	0	0	0	2	0	0	11
	退 所 者 数		0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	2	1	8
体 験 利 用 者	利 用 者 数		0	0	1	2	1	0	0	1	1	0	1	1(1)	8
	延 べ 利 用 者 数		0	0	4	12	12	0	0	7	7	0	3	16	61

※1利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2再掲:()内の体験利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

※3中期経営計画目標:16人

表－2. 短期入所(ショートステイ)利用状況

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開 所 日 数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利 用 者 実 人 数	11	10	9	7	8	10	9	7	8	6	5	6	－
延 べ 利 用 者 数	47	36	41	47	46	38	42	38	43	38	36	40	492
1 日 平 均 利 用 者 数	1.6	1.2	1.4	1.6	1.5	1.3	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.4
利 用 率 (%)	52	39	46	51	49	42	45	42	46	41	43	43	45

※1 延べ利用者数:中期経営計画目標 630人/年

※2 利用率:延べ利用者数÷(定員3名×開所日数)×100

表－3. 地域移行支援 体験宿泊利用者状況

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利 用 者 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延 べ 利 用 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※再掲:()内の体験宿泊利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

表－4－(1). 新規利用者の利用前の状況 (人)

	入 院	在 宅	施設入所	計
男 性	5	2	0	7
女 性	2	2	0	4
計	7	4	0	11

中期経営計画目標：入院からの利用7人／年

表－4－(2). 新規利用者の紹介元 (人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男 性	0	1	0	3	3	0	0	7
女 性	0	0	0	1	3	0	0	4
計	0	1	0	4	6	0	0	11

表－5. 退所者転帰 (人)

	地域生活への移行			入院	他施設移行	その他	計
	単身自立	グループホーム	家庭復帰				
男 性	2	0	0	2	0	0	4
女 性	1	2	1	0	0	0	4
計	3	2	1	2	0	0	8

中期経営計画目標：地域生活への移行8人／年

表－6. 退所者の利用期間 <平均利用期間 10か月>

期 間	人 数	内 訳
6か月未満	3	入院(2)、家庭復帰
6か月～1年未満	1	単身自立
1年～2年未満	4	単身自立(2)、グループホーム(2)
2年～3年未満	0	
計	8	

表－7. 利用者所轄保健福祉センター (人)

	青 葉	宮城野	若 林	太 白	泉	計
男 性	4	2	2	0	0	8
女 性	3	1	0	0	0	4
計	7	3	2	0	0	12

表－8. 平均年齢 (歳)

	男 性	女 性	全 体
平 均	48.4	45.4	46.9

表－9. 「主たる精神障害」による区分 (人)

診断名	男 性	女 性	計
統合失調症	7	3	10
統合失調感情障害	1	0	1
知的障害(精神遅滞)	0	1	1
そ の 他	0	0	0
計	8	4	12

表－10. 障害者手帳取得状況 (人)

	人 数	備 考
精神障害者保健福祉手帳1級	4	
精神障害者保健福祉手帳2級	7	
精神障害者保健福祉手帳3級	0	
そ の 他 手 帳	1	
未 取 得	0	
計	12	

令和6年度 就労移行支援事業所 パルいずみ事業報告

利用者の就労に向け、個々の状態や状況に応じた就労プログラムを実施した。職場見学や就労体験実習などの事業所外プログラムの提供とともに、併設する就労継続支援 B 型サービスを活用し、きめ細かな就労支援の充実に努めた。また、就職者の職場定着に向けた取組を積極的に行い、就労の継続を図った。

1. 事業内容

(1) 就労支援

令和6年度中に延べ3名の就労支援を行った。4月に1名が身体状況の変化により利用を終了し、療養を経て6月にB型事業に切り替えた。6月に1名が障害者枠での就労につながった。もう1名については、就職に向けて支援を進めている。(中期経営計画目標：3名)

①就労プログラムの実施

事業所内外において、下表のとおりプログラムを実施した。

なお、プログラムの実施にあたってはハローワーク仙台での求人検索等のほか、宮城労働局を通じた職場実習や仙台市障害者就労支援センターと連携し、就労体験実習を実施した。

	プログラム	内 容	実施状況
事業 所 内	基礎訓練	①活動記録表作成及び振り返りによる生活習慣確立、自己理解促進	通所時
		②文字の書き取り・漢字の読み書き・計算問題	個別対応
		③フリートーク（コミュニケーション力向上）	個別対応
		④パソコン入力（Word 12コース Excel 6コース、ナビゲーションブック作成）	個別対応
	講義 (就労支援シート)	■ステップ1 ○就労に向けた動機づけ	8回
		①働く目的	
		②働くための準備	
		③自分に合った仕事を見つける	
		④障害開示・非開示	
		⑤雇用形態（一般雇用・障害者雇用）	
		⑥社会資源	
		⑦ステップ1のまとめ（2回）	
		■ステップ2 ○就労に関わる法律	8回
		①労働基準法	
		②パートタイム労働法	
		③最低賃金法	
		④医療保険（健康保険・国民健康保険）	
		⑤労働保険（労災保険・雇用保険）	
		⑥年金（国民年金・厚生年金）（2回）	
		⑦ステップ2のまとめ	
		■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー	7回

		①第一印象を磨く（2回）	
		②身だしなみ、姿勢、お辞儀（2回）	
		③コミュニケーション	
		④敬語、名刺交換	
		⑤履歴書の書き方	
事業所外	販売訓練	区役所	1回
	ハローワーク	求職者登録、求人検索	1回
	職場見学	①エヌ・ティファシリティーズ株式会社	1回
		②株式会社東北電力フレンドリーパートナーズ	1回
	就労体験実習	①泉図書館	1回
		②シェルコム仙台	1回
		③エヌ・ティファシリティーズ株式会社	1回

②仙台市障害者就労支援センターとの連携や宮城県障害者就労連携構築支援事業等の活用を通じ、3か所で就労体験実習を実施した。

③就労後の職場定着支援

障害者雇用及び一般アルバイトの利用者2名を対象に実施した。（中期経営計画目標：12名）

令和6年7月に就職した1名は、定期的な職場訪問や電話連絡を通して課題や状況把握を行い、企業の担当者と連携しながらアフターフォローを行った。令和3年度に就労した1名は、本人から、または当方からの連絡を通して体調や勤務状況の確認や企業との連絡調整を行い、サポートを継続した。（下欄参照）

No.	採用年月	性別	年齢	利用期間	現在の勤務状況	支援状況
1	R6. 7	男	34	2年	継続勤務中（9か月）	訪問及び電話
2	R3. 9	男	33	2年6か月	継続勤務中（3年7か月）	電話連絡等

（2）作業訓練（下請作業・自主製品）

多機能型事業所としてB型事業の生産活動参加の他、販売会参加や企業への納品時に同行する等、役割意識を持って作業に取り組めるよう支援した。

（3）相談支援

①定期面接

3か月ごとに定期的に実施し、課題に対する振り返り・個別支援計画の評価・見直しを行った。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

（4）健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時

のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

（5）余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事実施

②食事会実施

ランチ	4月	筍の炊き込みご飯、天ぷら	10月	炊き込みご飯、豚汁
	5月	スープパスタ、サラダ	11月	栗ご飯、肉野菜炒め
	6月	チーズビビンバ	2月	カレーライス、サラダ
	8月	夏野菜カレー	3月	ちらし寿司
	9月	冷たい蕎麦		
レクリエーション	7月	外出（レストランランチ）	12月	クリスマスコンサート、ランチ
	10月	バス旅行（松島、仙台市内）	1月	ゲーム、お餅メニュー

（6）実習生の受入れ・指導等

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	3名
	仙台白百合女子大学（うち4名は模擬面接実習）	5名
	東北文化学園大学	1名
	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	1名
	専門学校高崎福祉医療カレッジ	1名
	日本福祉教育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	41名
	宮城大学	10名
	仙台青葉学院短期大学	7名
	葵会仙台看護専門学校	43名
	仙台医療センター附属看護助産学校	29名
	仙台市医師会看護専門学校	12名
介護等体験実習	宮城教育大学	1名
	宮城学院女子大学	1名
計		156名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。（1月）

（7）就労アセスメントの実施

実施実績なし。

（8）仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に2回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を9月(188部)及び3月(176部)に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

利用者増のために、泉区役所、障害者就労支援センター、障害者相談支援事業所(3か所)、クリニック(2か所)、地域包括支援センターを訪問した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議(ていーたいむパロス)の世話人会の加入を継続し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。また、泉ヶ丘地区社協や泉パークタウンサービス等、地域団体や事業所に周知を図り、ネットワーク作りに取り組んだ。

2.実績報告

表－1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
当月在籍者数(定員6名)	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—
利用者実人数	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—
新規利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
延べ利用者数	46	42	40	22	21	19	22	20	20	19	18	20	309 ※2
1日平均利用者数	2.2	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3 ※3
利用率(%)	37	33	33	17	17	17	17	17	17	17	17	17	21

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:1,440人/年

※3 中期経営計画目標:6人

表－2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

表－3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	1	0	1	0	0	0	2
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	0	0	0	2

表－4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	0	0	0	0	1	0	1
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	0	1

表－5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	44.0	—	44.0

表－6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
知的障害	1	0	1
計	1	0	1

表－7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	0	
精神障害者保健福祉手帳2級	0	
精神障害者保健福祉手帳3級	0	
その他	1	療育手帳B
計	1	

令和6年度 就労継続支援B型事業所 パルいずみ事業報告

一人ひとりの利用者の目標達成に向け、状況や希望を把握し、個々に合わせたサービス提供に努めた。工賃については、定期的な作業を確実に実施し、単価の高いものを含め新規の下請け作業を受注することができたため、令和5年度実績及び目標を上回る結果となった。

1. 事業内容

(1) 生産活動

工賃向上への取組み（中期経営計画目標平均工賃月額 26,000円以上）

（年間売上合計）

年間売上合計	下請作業等	3,151,707 円
5,190,092 円（前年度比 104%）	外部作業	154,475 円
（令和5年度実績 4,999,475 円）	自主製品	1,883,910 円

（平均工賃）

平均工賃月額	27,830 円（前年度比 110%）	令和5年度実績	25,373 円
時給額	482 円（前年度比 107%）	令和5年度実績	449 円

① 下請作業

（事業所内）

- ・アンケート集計・データ入力
- ・箱折
- ・企業広告等の封入・封かん
- ・生菓の計量及び袋詰め
- ・医療用ごみ袋封入
- ・梱包

（外部作業）

- ・企業内での業務

② 自主製品制作

- ・ビーズ製品（アクセサリー、ストラップ等）
- ・手芸製品（アクセサリー、クリスマス製品等）

自主製品については、仙台駅構内での売店、福祉ショップ等の4か所の委託先での販売を継続した。また、県庁職員や仙台市職員を対象とした通販の企画に参加し、自主製品の販売を行った。

販売会については、以下のとおり行った。

販売会名（実施時期）
区役所販売会：泉区役所（5～7月、9～11月）計6回
泉ヶ丘小学校バザー（9月）
グッドタイムマルシェ（9月）
県庁ロビー働く障害者ふれあいフェスティバル（12月）

(2) 相談支援

①定期面接

6 か月ごとの個別支援計画の見直しに係る面接実施のほかに、1 か月に1 回程度の定期面接を実施し、事業所利用状況や生活状況の確認、バイタルチェックなどを実施した。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(3) 就労支援

①就労移行支援事業との連携（就労プログラムへの参加等）

本人の就労への意欲や目標に応じ、ステップアップの方法の一つとして利用者に就労移行支援事業の情報提供を行った。

②利用者の希望に沿った支援の実施

定期的な面接場面等を通じて、利用者の意向を適切に把握するように努め、希望に沿った支援を提供できるよう努めた。また、就労した退所者へも本人の状態に合わせて電話連絡や面談を行い、継続できるように努めた。

(4) 丁寧な支援を必要とする方や精神障害を持つ高齢者への支援

①作業環境の整備

個々の活動に合わせて作業に必要な物の配置を行ったほか、移動しやすいよう作業場所を配慮した。

②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

一人ひとりの状態に応じて作業内容、作業方法について検討し、指導を進めた。

③関係機関との連携

家族や関係機関と必要に応じて連絡調整等を進め、支援を進めた。

(5) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1 か月に1 回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事实施

②食事会実施

ランチ	4月	筍の炊き込みご飯、天ぷら	10月	炊き込みご飯、豚汁
	5月	スープパスタ、サラダ	11月	栗ご飯、肉野菜炒め
	6月	チーズビビンバ	2月	カレーライス、サラダ
	8月	夏野菜カレー	3月	ちらし寿司
	9月	冷たい蕎麦		
レクリエーション	7月	外出（レストランランチ）	12月	クリスマスコンサート、ランチ
	10月	バス旅行（松島、仙台市内）	1月	ゲーム、お餅メニュー

（７） 実習生の受入れ・指導等

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	3名
	仙台白百合女子大学（うち4名は模擬面接実習）	5名
	東北文化学園大学	1名
	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	1名
	専門学校高崎福祉医療カレッジ	1名
	日本福祉教育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	41名
	宮城大学	10名
	仙台青葉学院短期大学	7名
	葵会仙台看護専門学校	43名
	仙台医療センター附属看護助産学校	29名
	仙台市医師会看護専門学校	12名
介護等体験実習	宮城教育大学	1名
	宮城学院女子大学	1名
計		156名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。（1月）

（８） 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に2回参加した。

（９） 利用者増のためのPRの強化

広報誌を9月（188部）及び3月（176部）に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

利用者増のために、泉区役所、障害者相談支援事業所（3か所）、クリニック（2か所）、地域包括支援センターを訪問した。

（10） 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会へ加入を継続し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。また、泉ヶ丘地区社協や泉パークタウンサービス等、地域団体や事業所に周知を図り、ネットワーク作りに取り組んだ。

2.実績報告

表－1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
当月在籍者数(定員24名)	22	23	24	24	24	24	24	24	24	25	24	24	—
利用者実人数	21	22	20	23	23	24	23	23	22	23	24	23	—
新規利用者数	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
退所者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
延べ利用者数	226	226	215	220	204	206	222	217	195	197	185	216	2529 ※2
1日平均利用者数	10.8	10.8	10.8	10.0	9.8	10.9	10.1	10.9	9.8	10.4	10.3	10.8	10.5 ※3
利用率(%)	45	45	45	42	40	45	42	45	41	43	43	45	43

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:4,800人/年

※3 中期経営計画目標:20人

表－2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・ 家族	区役所	その他行政 機関	医療機関	相談支援事 業所	福祉サービ ス事業所	その他	計
男性	2	1	0	0	0	0	0	3
女性	1	0	0	0	0	0	0	1
計	3	1	0	0	0	0	0	4

表－3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	1	0	0	0	1
女性	0	0	1	0	0	0	1
計	0	0	2	0	0	0	2

表－4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	3	0	0	1	10	0	14
女性	2	1	0	0	7	0	10
計	5	1	0	1	17	0	24

表－5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	49.0	45.8	47.7

表－6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	9	5	14
双極性障害	0	1	1
うつ病	2	1	3
パニック障害	1	0	1
適応障害	0	1	1
情緒不安定型パーソナリティ障害	0	1	1
てんかん	1	0	1
知的障害	1	1	2
計	14	10	24

表－7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	1	
精神障害者保健福祉手帳2級	16	・うち療育手帳B 1
精神障害者保健福祉手帳3級	2	
その他	5	・うち身体障害者手帳1級、療育手帳B 1 ・身体障害者手帳6級 1 ・うち療育手帳B 3
計	24	

令和 6 年度 就労継続支援 B 型事業所 パル三居沢事業報告

利用者一人ひとりが安心して通所し、自らの目標に向けて活動できるようきめ細やかな支援に努め、魅力ある事業所作りを目指した。

作業面に関しては、下請作業について単価交渉を行い作業収入増に努めた他、自主製品に関しては新規製品の開発に取り組み、販売会への出店や委託販売先の確保を行った。その結果年間売上金額が昨年度を上回ることが出来た。

また新規利用者の獲得にも努め、利用者延べ人数も昨年度を上回ることが出来た。

1 事業内容

(1) 生産活動

- ・工賃向上への取り組み

(年間売上合計)

年間売上合計	下請作業	1,928,482 円
3,014,252 円 (前年度比 109%)	外部作業 (清掃、除草)	878,300 円
(令和 5 年度実績 2,769,210 円)	自主製品 (リース等、手芸品)	207,470 円

(平均工賃)

平均工賃月額	20,720 円 (前年度比 87%)	令和 4 年度実績	23,787 円
時給額	384 円 (前年度比 86%)	令和 4 年度実績	445 円

①下請作業

- ・医療用コルセット組立て
- ・企業広告等の封入・封緘
- ・箱折
- ・通販商品出荷作業

②外部作業

- ・清掃作業
- ・除草作業
- ・刈り草収集作業

③自主製品制作

- ・自然素材を用いたリース等
- ・手芸製品 (アクリルたわし等)

(2) 相談支援

利用者や家族からの生活面での相談など個々の相談に対しては真摯に向き合い、不安解消等に向けた適切な助言・指導を行った。

- ①定期面接 6 か月以内の個別支援計画の見直しに向けた定期面談を適宜実施した。
- ②随時面接 必要に応じて実施した。

(3) 就労支援

将来的に一般就労を希望する利用者に対し、面接場面を通し本人の意向の把握に努め、希望に沿った支援が提供できるよう助言や情報提供に努めた。

(4) 重度の障害のある者や高齢精神障害者への支援

重度の障害のある者や高齢精神障害者を積極的に受け入れ、社会参加の促進を図った。

- ①利用者の多くが作業参加できる環境を整えた。
- ②個々の利用者の体力や障害特性を踏まえた作業工程・手法を提案した。
- ③関係機関との連携を深め支援の質を高めた。

(5) 健康管理

利用者の健康増進、維持に努めた。

- ①各區で実施する各種検診の情報を提供した。
- ②ラジオ体操を実施した。
- ③健康維持に向け、健康増進センターに講師を依頼し、生活の中に運動を取り入れられる講話やストレッチについて学んだ他、機会をとらえ夏バテ予防や感染症予防の説明について事業所内で取り組んだ。
- ④健康に関する自己管理意識の動機づけを行った。(体重や血圧の測定等)

(6) 余暇支援(行事・レクリエーション)

利用者間や職員との交流など事業所内全体の親睦を深めることを目的に、利用者の希望を反映させた季節の行事やレクリエーションを企画した。

4月	お花見(おにぎり弁当)・クイズ	10月	芋煮会
5月	食事会(からあげ弁当) 健康講話、軽ストレッチ	11月	食事会(オムライス弁当)、ゲーム
6月	外出(ランチ)	12月	クリスマス会、ビンゴ大会
7月	食事会(土用丑の日) クイズ、ゲーム	2月	食事会(ピザ) すずめ踊り鑑賞
8月	夏祭り・ゲーム	3月	食事会(ハンバーガー) スライドショー
9月	バス旅行(山形県村山方面)		

(7) 広報活動

法人・事業所の広報誌、ホームページ、ブログ等の活用や訪問活動を拡充し、事業内容等を広く紹介することで、新たな利用者の受入れや新規受託作業の獲得に努めた。

特に、ホームページ内のブログの更新は、月に1回の頻度で行い、作業活動のほか販売会やレクリエーションの内容等を積極的に紹介した。

(8) 実習生の受け入れ・指導

福祉専門職、看護師等の養成に協力するため、COVID-19 予防策について学校側とも協議して取り組み、実習生を受け入れ指導した。

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	4 名
精神看護学実習	東北大学	6 0 名
	仙台青葉学院短期大学	4 名
	葵会仙台看護専門学校	3 6 名
	宮城大学	1 2 名
	仙台医療センター附属仙台看護助産学校	2 6 名
		1 4 2 名

Ⅱ 事業実績

(令和7年3月31日現在)

表-1. 利用状況月別推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
当月在籍者数(定員20名)	19	19	19	20	20	20	21	22	22	22	22	22	—
利用者実人数	18	16	18	17	17	19	20	20	19	20	20	20	—
新規利用者数	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	5
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
延べ利用者数	213	202	209	224	204	199	235	241	240	216	210	245	2638 ※2
1日平均利用者数	10.2	9.7	10.5	10.2	9.8	10.5	10.7	12.1	12.0	11.4	11.7	12.3	10.9 ※3
利用率(%)	51	48	52	51	49	52	53	60	60	57	58	61	54

※利用率:延べ利用者数÷(定員×開所日数)×100

※2 中期経営計画目標:4,800人/年

※3 中期経営計画目標:20人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・ 家族	区役所	その他行政 機関	医療機関	相談支援事 業所	福祉サービ ス事業所	その他	計
男性	0	0	0	0	2	0	1	3
女性	1	0	0	0	1	0	0	2
計	1	0	0	0	3	0	1	5

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	1	0	0	0	0	1
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	0	0	1

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	12	0	0	2	0	0	14
女性	6	0	1	1	0	0	8
計	18	0	1	3	0	0	22

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	55.5	53.2	54.6

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	11	2	13
うつ病	1	2	3
強迫性障害	0	1	1
知的障害	1	0	1
不安障害	0	1	1
身体障害	1	0	1
広汎性発達障害	0	1	1
てんかん	0	1	1
計	14	8	22

表-7. 障害者手帳取得状況

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	2	うち療育手帳B1人
精神障害者保健福祉手帳2級	14	うち療育手帳B1人
精神障害者保健福祉手帳3級	4	
身体障害者手帳	1	1級(下肢右4、下肢左7)
療育手帳	1	B
計	22	

令和6年度 障害者相談支援事業所 ほっとすぺーす事業報告

障害者相談支援事業では、精神科病院に入院している方への退院支援や、多領域にわたる複雑な生活課題がある障害者や家族等に対する支援を行政機関や医療機関等と連携しながら行った。延べ利用者数は、電話相談や面接相談等も含めて目標の4,000件に対して6,385件と上回った。

地域の障害者への支援体制整備に関する活動として、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に参画し、相談支援事業所等連絡会の運営を担った他、各種会議体へ参加した。また、宮城県障害者自立支援協議会人材養成部会に参加し、地域課題の取組等について検討した。地域の支援者同士のネットワーク形成を目的に、ゆるっく〜地域でつながろうの会〜（国見地域多職種連携ネットワーク会議）に事務局として参画した。

計画相談支援では、障害福祉サービスを利用する方々にサービス等利用計画の作成や調整を行い、地域生活を支援した。

I 事業内容

1. 障害者相談支援事業（委託相談支援）

（1）障害者相談支援業務

令和6年度は、249名の利用者が委託相談支援を利用しており、うち46名が新規利用者となっている。

支援内容としては、322回の訪問、76回の面接、114回の同行支援を実施。また、個別支援会議を843回、関係機関との連絡調整を2,207回、その他電話相談等の支援と合わせると延べ6,385件の支援を行った。

（中期経営計画目標：委託相談支援事業延べ利用者数4,000件）

① 福祉サービスの利用援助事業

仙台市権利擁護センター（まもりーぶ仙台）や成年後見制度、移動支援などの利用に関する情報提供や助言、生活保護申請及び各種手続きに関する助言や同行、ホームヘルパーによる居宅介護、短期入所等の利用に係る調整や援助を行った。

また障害福祉サービスから介護保険移行に伴う調整を地域包括支援センターと連携して行い、2名の利用者が介護保険に移行した。

② 社会資源を活用するための支援事業

利用者の希望を確認し、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、自立訓練事業所、共同生活援助事業所等の紹介や見学の同行等及び福祉機器の導入調整等を行った。また、住居探しのための情報提供や同行も行った。

③ 社会生活力を高めるための支援事業

関係機関や障害福祉サービス事業所等とも連携しながら、健康、服薬、金銭管理、家事、公共交通機関の利用、趣味や余暇活動の充実など自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。

④ 専門機関の紹介事業

利用者のニーズを把握した上で、各種専門機関の紹介を行った。また、発達障害や知的障害のある方、病識が不十分な方等について、専門機関と連携しながら支援を行った。

⑤ 障害者ケアマネジメントに関する事業

各区保健福祉センター等の関係機関とも連携しながら、利用者の希望を確認し、それぞれが持っている力を活かせるよう支援を行った。また本人との信頼関係の構築を図りながら、家族の相

談にも応じた。

また、入院中の利用者の退院へむけた支援として、25回の訪問を実施した。

(中期経営計画目標：入院から退院に向けた支援件数60件)

⑥ 地域住民等に対する普及啓発に関する事業

青葉区精神障害者家族教室、青葉区北ブロックケアマネージャー交流会、医療・高齢・障害分野の支援者とファイナンシャルプランナーの合同研修会に講師として参加。相談支援事業所についての説明、障害分野の説明及び高齢分野との連携についての意見交換、多職種連携の事例発表を行った。

ゆるっく～地域でつながろうの会～(国見地域多職種連携ネットワーク会議)に事務局として参画。地域活動に関する話題提供や情報交換を3回実施。1月に地域住民を対象とした相談会として、カフェ・音楽レクリエーション・パル三居沢の射的を取り入れたイベントを開催した。

更に、月1回程度ブログを更新し活動内容の紹介を行った他、広報誌「ほっとすぺーす便り」を下記の通り発行した。

区 分	部 数	配 布 先
	8 月	
利用者	108	
関係機関	65	仙台市健康福祉局関係部署、精神科病院及びクリニック、宮城県及び仙台市社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、障害者相談支援事業所、法人役員など
計	173	

⑦ その他生活支援に関すること

福祉サービスに関する支援等に限らず、居室の掃除等、利用者の生活全般における困りごとに対して支援を行った。

⑧ 障害者同士が自主的に交流できる場や地域住民との交流を図るための場を提供する事業

誰もが自由に利用できるフリースペースとしてサロンの場を提供し、必要に応じて来所者の個別相談を実施した。

(2) 障害者虐待の防止に係る業務

利用者支援にあたり、関係機関と連携しながら虐待の未然防止や早期発見の観点をもって支援を行った。また障害者虐待防止・権利擁護研修に参加し意識向上に努めた。

(3) 障害を理由とする差別の解消に係る業務

差別に関する相談は受けていないが、関係機関と連携しながら障害を理由とする差別の解消を図れるよう利用者支援を行った。また障害者差別解消法に係る研修に参加し意識向上に努めた。

2. 指定特定相談支援事業(計画相談支援)

障害福祉サービスの利用を支援するために88名と計画相談の契約を締結しており、69件のサービス等利用計画の作成、サービス担当者会議の開催、モニタリングなど、個々の利用者の状態に応じた継続的な支援を行った。

(中期経営計画目標：計画相談利用者実人数100名)

計画相談利用者に対し、559回の訪問、25回の面接、32回の同行支援を実施し、利用者に対するアセスメントや障害福祉サービスの利用支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を239回、関係機関との連絡調整を2,171回行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と連携を図った。

3. 指定一般相談支援事業（地域相談支援）

（1）地域移行支援

支援対象者がいないので、実績なし。

（2）地域定着支援

支援対象者がいないので、実績なし。

4. 指定障害児相談支援事業

支援対象者がいないので、実績なし。

5. 仙台市の協議会等への参加

（1）青葉区障害者自立支援協議会

障害者への支援体制整備に向けて、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に事務局として参画。運営会議に12回参加した。また、サポネットあおばの会議体である相談支援事業所等連絡会を担当した他、実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）、青葉区高齢者障害者地域会議へ参加した。

○相談支援事業所等連絡会：青葉区内の指定特定相談支援事業所、委託相談支援事業所、地域生活支援拠点、仙台市精神保健福祉総合センター、青葉区障害高齢課、宮城総合支所保健福祉課・障害高齢課、基幹相談支援センター、青葉区内の地域包括支援センターが参加し、相談支援に有効な話題提供、重点的に関わる対象者のケースレビュー、事例検討及びグループスーパービジョンを11回実施し、支援力の向上に努めた。

○実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）：青葉区内の関係機関のネットワークの緊密化を促進するために、参加事業所の近況や情報共有、地域とのつながりの中での支援をテーマに2回実施した。

○青葉区高齢者障害者地域会議：高齢分野と障害分野の支援機関の連携及び地域の支え合いの体制作りを目的に、青葉区の課題を共有しながら、課題解決に向けた取り組みを検討するためのキーワードを絞るための意見交換を1回実施した。

（2）宮城県障害者自立支援協議会 人材養成部会

青葉区障害者自立支援協議会の部会委員として、人材養成部会（2回）、相談支援従事者連絡会（1回）に参加。宮城県サービス管理責任者等研修のファシリテーター及び講師の確保、相談支援従事者の人材育成、強度行動障害を有する障害児者への支援体制について協議した。

（3）相談支援事業所連携会議

旧精神の委託相談支援事業所の事業運営や自立支援協議会の活動等について、情報共有と意見交換を2回行った。

Ⅱ 事業実績

1. 委託相談支援実施状況

表－1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者実人員	障害者	99	124	102	90	94	105	106	97	94	105	98	106
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	計	99	124	102	90	94	105	106	98	95	106	99	107

表－2. 支援方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	41	22	31	26	24	22	29	26	29	20	25	27	322
来所相談	15	4	6	4	7	7	13	2	8	3	4	3	76
同行	8	12	18	5	8	10	12	14	11	3	8	5	114
電話相談	234	182	221	227	273	236	255	254	246	250	216	229	2823
オンライン相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個別支援会議	66	120	65	67	78	60	107	59	60	45	57	59	843
関係機関	163	193	167	161	187	196	150	248	221	217	164	140	2207
交流室	3	2	6	3	1	2	3	1	1	5	5	6	38
計	530	535	514	493	578	533	569	604	576	543	479	469	6423

表－3. 支援内容

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	242	292	281	232	300	299	279	349	311	310	276	226	3397
障害や症状の理解	24	19	22	10	14	32	13	19	14	8	4	13	192
健康・医療	71	76	55	45	67	69	59	59	66	75	54	47	743
不安の解消・情緒安定	225	136	168	191	202	161	217	209	213	195	161	183	2261
保育・教育	4	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	7
家族関係・人間関係	40	51	29	25	24	41	14	17	18	25	8	9	301
家計・経済	34	35	24	21	21	17	34	23	19	19	29	28	304
生活技術	31	21	29	23	24	24	34	20	14	14	7	7	248
就労	8	6	9	3	18	4	5	6	5	4	3	9	80
社会参加・余暇活動	7	4	5	5	2	4	5	5	10	16	16	4	83
権利擁護	7	7	18	5	5	4	9	9	4	2	2	1	73
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
計	693	647	640	560	679	656	669	716	674	669	560	528	7691

表－4. 利用実人員内訳

(人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	248	5	0	9	232	20	3	2	1
障害児	1	0	0	0	1	0	0	0	0
計	249	5	0	9	233	20	3	2	1

表－5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	24	6	3	5	6	1	0	1	46

表－6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	40
-----	----

表－7. 個別支援会議の内訳

	ほととすべーす主催	他機関主催	所内での事例検討	計
件数	13	22	808	843

2. 計画相談支援実施状況

表－1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者実人員	障害者	65	58	64	59	64	57	66	66	65	67	59	68
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	65	58	64	59	64	57	66	66	65	67	59	68

表－2. 支援方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	49	47	46	49	52	37	52	37	39	50	45	56	559
来所相談	1	2	4	1	3	6	3	1	1	2	1	0	25
同行	2	7	2	2	0	6	2	4	1	2	1	3	32
電話相談	83	89	97	62	72	96	102	82	69	108	98	91	1049
オンライン相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個別支援会議	23	19	19	24	20	19	22	13	21	21	16	22	239
関係機関	176	191	157	172	156	192	188	178	158	210	197	196	2171
交流室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	334	355	325	310	303	356	369	315	289	393	358	368	4075

※交流室は委託相談支援実施状況にまとめて記入

表－3. 支援内容

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	267	283	283	283	266	298	302	263	248	309	290	296	3388
障害や症状の理解	9	10	4	9	5	7	14	16	12	17	13	9	125
健康・医療	71	60	42	70	62	66	79	68	50	104	96	71	839
不安の解消・情緒安定	52	44	44	38	43	56	55	45	39	67	54	55	592
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
家族関係・人間関係	18	14	22	19	17	20	31	21	13	54	38	31	298
家計・経済	22	31	13	16	11	17	29	8	11	19	10	20	207
生活技術	6	22	18	9	5	6	16	4	9	12	6	12	125
就労	11	7	7	14	9	5	10	4	7	13	9	7	103
社会参加・余暇活動	3	1	2	2	1	0	3	0	1	6	5	5	29
権利擁護	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	2	3	9
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
計	459	472	437	461	420	475	539	429	390	603	524	510	5719

表－4. 利用実人員内訳

(人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	88	5	0	4	87	0	0	0	0
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	88	5	0	4	87	0	0	0	0

表－5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	5	1	0	0	0	0	0	0	6

表－6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	7
-----	---

表－7. 個別支援会議の内訳

	ほっとすべーす主催	他機関主催	所内での事例検討	計
件数	65	8	166	239